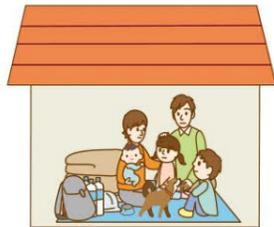


避難するときの注意点

● 自宅での避難（在宅避難） 地震

在宅避難とは、災害時に、自宅の倒壊や焼損、浸水の危険性がない、丈夫な建物に住んでいる場合は自宅にとどまる避難のことです。自宅が安全であれば、避難所よりも「在宅避難」の方が普段の生活に近い環境で過ごすことができます。ハザードマップ12～13ページを参考に、家庭内備蓄を行いましょう。



【在宅避難のメリット】

- ✓ 住み慣れた家で生活できる
- ✓ プライバシーが守られる
- ✓ 自分にあった寒さ・暑さ対策
- ✓ ストレス軽減
- ✓ ペットと一緒にいられる
- ✓ 好みにあった備蓄品で生活できる

● 自宅での避難（垂直避難） 風水害

周囲が浸水している場合は、**自宅の高い所に移動しましょう**（垂直避難）。川の水があふれても、草加市内は建物の2階以上まで浸水する可能性は低いため、**自宅の2階以上へ避難をお願いします。**



垂直避難（2階以上へ移動）

自宅の2階以上への避難が難しい人

浸水する危険がない親戚や知人宅へ避難することも念頭に!



- 日ごろから親戚や知人と連絡を取り合いましょう。
- 車で移動するときは、早めの行動を。
- 周囲が浸水してからの外への避難は危険ですのでやめましょう。



! 水害時の避難行動の目安として「自分の身を守るため準備や情報収集をしよう（p.10）」を確認してください。

● 避難所等への避難（水平避難） 風水害

避難にあたっては避難所へ向かうことにこだわらず、浸水しない地域の知人宅や、建物の2階以上に避難するなど、自らの判断で最善の安全確保のための行動をとることが重要です。「自宅にいては危険」と判断したら、早めに安全な建物に避難しましょう。



! 水害の場合、浸水する可能性の高い避難所は開設されない場合があります。そのときの状況に応じて、開設される避難所を確認する必要があります。

● 避難経路を確認しておきましょう 風水害 地震

避難場所を確認できても、そこまでの経路に危険な場所があると、たどり着くことが難しくなります。避難場所まで、どのようにしていくか、事前に確認しておくことも重要です。

安全性を
チェック
しよう

自宅から避難場所に向かう経路を2～3コース想定しておきましょう。その際は、以下のような避けるべきポイントをチェック。実際に自分の目で見て、安全性を確認しておきましょう。



道幅の狭い道 古い建物 高いブロック塀 大きな看板 河川・水路

● 原則、車では避難しない 風水害 地震

台風や大雨によって道路が冠水しているときは、車による避難は危険です。水害時は、避難所のグラウンドや駐車場に水がたまり、車が水没したり事故のおそれがあります。やむを得ず車中避難をする場合は、立体駐車場や屋上駐車場など、浸水するおそれがない安全な場所へ早めに避難してください。

車が水没してしまうと、浸水が60cmくらいでもドアが開きにくくなります。運転席の周囲に「脱出用ハンマー」を備えておき、万一のときはサイドガラスを割って脱出しましょう。



● 避難するときの服装 風水害 地震

- 手袋や軍手
- 目立つ色のレインコートなど
- 日ごろ使用している、はき慣れた靴
 - ※避難時は、持ち物を最小限にして、身軽に動けることを優先しましょう。
- 【地震時】頭を保護できる物（ヘルメット等）
 - ※ヘルメット等がない場合は、帽子の中にタオルを入れても頭を保護できます。



長靴は水が入って重くなり、動きづらく、サンダルは底が滑りやすく脱げやすいので、運動靴をはきましょう。

● 強い風への備え 風水害

飛ぶと危ない物は対策をしておきましょう。

- 1 植木鉢などは家の中に入れておきましょう。
- 2 雨戸がない窓は、カーテンを閉めたり、飛散防止フィルムを貼りましょう。
- 3 物干し竿は、飛ばされないように下ろしておきましょう。
- 4 強い風が吹いたときは、窓の少ない部屋へ移動しましょう。

